

## 人工知能×アダプティブ・ラーニング！クラウド型学習システム「すらら」 「すらら」導入学校数が100校を突破！

大学・専門学校でのリメディアル・キャリア教育へのニーズにも対応

株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：湯野川孝彦）では、クラウド型学習システム「すらら」の導入学校数が2016年6月末現在で100校を突破しました。

「すらら」の導入学校数は、この2年間、年間130%のペースで伸びており、この要因として以下2点が考えられます。

1点目はICT教材が急速に普及しつつある学校現場において、低学力生徒でも学習ができ、個々の学力に応じた指導を実現出来る教材として私立中学校・高等学校を中心に偏差値の向上など定量的な成績向上実績を出してきたことで、日本全国の学校への導入が進みました。現在、導入学校の約74%（6月末現在）において、学校の課題解決手段として授業内や放課後の補習授業で積極的な運用が行われています。

2点目は、最近では私立中学校・高等学校だけではなく、小学校での導入や公立学校、大学や専門学校での導入も進んでいます。大学、専門学校においては、基礎学力の向上を実現するため、入学前教育や入学後のリメディアル教育、キャリア教育を行なう必要があります。しかし、従来のマンパワーに頼った指導だけでは限界があるため、「すらら」を導入するケースが増えてきています。2016年6月末現在の大学の導入校数は、大学は9校、専門学校は2校となっています。

中京学院大学様(岐阜県)では、リメディアル教育とキャリア教育の両方で活用されています。短期大学部(瑞浪キャンパス)では、小学校英語指導者資格の取得に向けた講座において、リメディアル教育を行うための教材として「すらら」を活用されています。本講座を取られている学生の中には、勉強が苦手中学校範囲の英語の基礎が不足している学生が見られ、基礎学力の補充は不可欠であるものの、従来の集合授業では個に対応することができませんでした。そこで学生一人ひとりにとって最適な学習範囲を提示し、分かりやすいレクチャーや個の理解度に合わせた問題が出題される「すらら」を活用し、最適な学習ができるようになりました。学生からは、『すらら』であれば楽しく集中して学習することができる』などの前向きな意見が聞かれ、本年度からは短期大学部1年生全員への活用をスタートさせています。

また、経営学部(中津川キャンパス)では、キャリア教育の一貫として大学3年生を対象に、「SPI対策講座」内で「すらら」を活用されています。経営学部在籍している学生の多くは部活動に参加しているため、勉強よりも部活動に重きを置きがちとなり、基礎学力が不足している学生も見られます。

こうした学生に対して、学生個々の理解度に合わせた課題や教材提供の必要性が叫ばれてきましたが、これまでの教職員がマンパワーで指導を行うやり方では不可能でした。

「すらら」は、数学の基礎から学べる体系だった「SPI対策コース」を設けているため、教材の準備が不要で、短期間で基礎知識を含めた包括的な学習を全員にさせられています。また「すらら」には、分かりやすいレクチャー機能と、生徒個々の理解度に合わせた演習を自動的に出題する機能があるため、教職員は学生のモチベーション管理に注力することができ、多くの学生がやる気を維持しながら学び続けることが可能になります。

このように「すらら」を活用することで、社会人として活躍していくために必要な基礎学力を効率的に身につけることができます。

すららネットでは、今後も生徒の学力向上に向けた教育サービスの提供に尽力してまいります。

## ■クラウド型学習システム「すらら」とは

【学習範囲】 小学校高学年～高校3年生までの学習指導要領に準拠

【対応教科】 英語・数学（算数）・国語

【利用者数】 約 34,000 名（2016 年 6 月末現在）

【特徴】

### ○Point 1 スモールステップでわかりやすいインタラクティブ授業

1つの単元は10から15分程度で、小さな階段を少しずつ上るような構成。

しかも授業は一方的ではなく、随所で先生役のキャラクターが問いかけを行い、問題に答えていくというインタラクティブスタイル。そのため、飽きることなく、適度な緊張感を持続し、楽しみながら学習を進めていくことが可能。

### ○Point 2 難易度調整や弱点診断ができる演習ドリル

一人ひとりの理解度に応じて出題される問題の難易度を調整する「出題難易度コントロールシステム」を搭載。「簡単すぎず難しすぎない」問題が出題されることで、達成感を感じ自信を深めながら、学習を進めることが可能に。また、何がわからないから問題が解けないのか理由を探る「弱点自動判別システム」も搭載。

### ○Point 3 現役の塾の先生による手厚いフォロー

いつまでどこまでの学習をするかといった「月1回の目標設定」や、つまづいているところがないか「週1回程度の電話やメールでの進捗確認」など、継続して取り組めるよう現役塾講師がフォロー。また、クラウド型学習だからこそ、学習内容や正答率・解く速さなども詳細に把握できるので、お子様一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導が可能。

<参考>これまでのeラーニング教材の大半は以下の3パターン

1. 動画配信型：カリスマ講師のレクチャービデオを視聴するタイプ  
「理解」にはすぐれているが「反復」の部分がないためやりっぱなしになってしまい、実力が身につかない傾向がある。また、一方的な説明となるため、比較的意識の高いお子様でない、集中力が続かない。
2. 問題集型：問題集の結果をパソコンに打ち出して結果分析をするタイプ  
「定着」にすぐれているが「理解」の部分がないため、学力の高い生徒でない、一人で学習を進めることが困難な傾向がある。
3. ゲーム型：携帯用ゲーム機などを使って学習するタイプ  
非常に楽しく学習できるが、単語など反復による暗記系が中心で、体系的な学習には不向き。

「すらら」はこうしたそれぞれの短所を補い、長所を相乗効果的に組合せた、理想の"次世代型教育システム"です。



## ■「すらら」の“アダプティブ・ラーニング”機能

生徒の解答結果から独自のアルゴリズムにより苦手部分を分析・特定し、生徒それぞれに最適化した学習すべき解説や問題を自動で提示する機能。学習者が苦手分野を自分で克服できるようにする。

## ■「すらら」における“人工知能”

AIが生徒の学習データに基づき先生の代わりに生徒と対話を行う機能「AI サポーター」を搭載し、生徒のモチベーションに与える効果について慶応義塾大学 中室牧子研究室と共同研究を実施中。

### ■ 株式会社すらら ネット 会社概要

- 設立：2008年8月 ○ 資本金：13,795万円 ○ 所在地：東京都千代田区内神田
- 事業内容：クラウド型学習システムによる教育サービスの提供および運用コンサルティング、マーケティングプロモーション及びホームページの運営
- 会社 URL：http://surala.jp/
- 受賞歴：
  - ・第9回日本 e-Learning 大賞 文部科学大臣賞(2012年)
  - ・Japan Venture Awards 2014 中小機構理事長賞(2014年)
  - ・第2回「日本ベンチャー大賞」社会課題解決賞（審査委員会特別賞）（2016年）
  - ・第8回「千代田ビジネス大賞」大賞(2016年)